

病棟保育士と医師との協働に関する調査 報告書

本調査の概要

【研究の背景・目的】

これまで、病棟保育士と他職種との協働に関しては、病棟保育士と他のコメディカルとの協働などが検討されてきた一方で、保育士と医師との協働については十分に検討されてきませんでした。そこで行った昨年度の小児専門病院勤務の医師を対象に行なった予備調査では、病棟内の保育士に期待する声があると同時に、「実際何をやっているのかわからない」「他のコメディカルとの違いをわからない」など、協働する上での課題も散見されました。今後病棟保育がより一層普及し、専門性を向上していく上で、医師と効果的に協働することは必要不可欠であると考えられます。

そこで本調査では保育士と医師との協働の様相を把握すべく、保育士の人数、雇用形態などが異なる4つの小児専門病院を対象に調査を実施し、保育士・医師間の交流の度合いなどをお尋ねした上で、互いの職種に対する認識や協働のしやすさ、しにくさ、その要因などについて探索的に検討することを目指します。

本調査の概要

【研究方法】

- 調査方法：各施設に郵送後、各施設の保育士によって配布。
回答後は各自で封筒に封入の上、回収ボックスなどで回収。
- 調査時期：2020年2月（新型コロナウイルス感染拡大前）
- 調査対象：小児専門病院4施設の常勤医師・常勤/非常勤保育士
※ 本報告では、施設・個人の特定を防ぐため、全施設をまとめて分析しています。
- 回収状況：医師 315名分配布・151名分回収（回収率：47.94%）
保育士 47名分配布・43名分回収（回収率：91.49%）
※ 少なくとも8名の医師は、保育士との接点がないとして回答しませんでした。

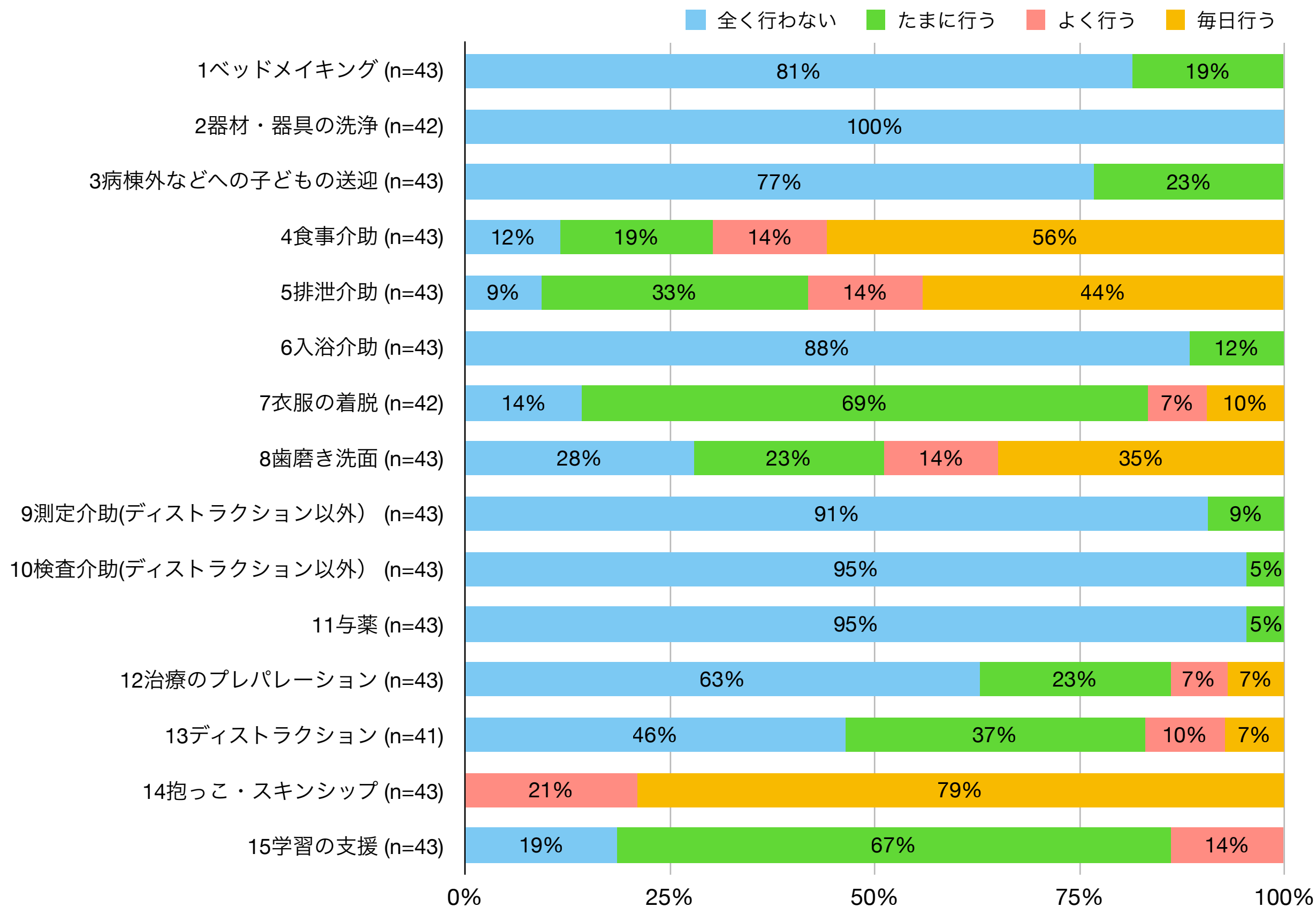
参加していただいた保育士の概要

回答者数：43人

雇用形態 1		勤務経験のある施設（複数回答）	
正規職員	12	保育所（認可・認可外・小規模・事業所内・院内保育所含む）	30
契約職員	9	幼稚園	17
パート・アルバイト	8	乳児院	2
その他	12	養護施設	3
Missing	2	他病院の病棟	8
雇用形態 2		病児・病後児保育施設	4
常勤	19	身体障害者施設	3
非常勤	23	その他	11
Missing	1	なし	4
職種		学歴	
保育士	41	専門学校含む専修学校	7
保育士・HPS	2	短期大学	22
保有資格・免許（複数回答）		4年生大学	14
保育士	43	性別	
幼稚園教諭	35	男性	2
医療保育専門士	7	女性	41
CLS・CCLS	0	平均年齢	
HPS	6	43.8歳 (22-64歳)	
CCS（子ども療養支援士）	0	平均勤務年数	
その他	9	15.7年 (0-33年)	

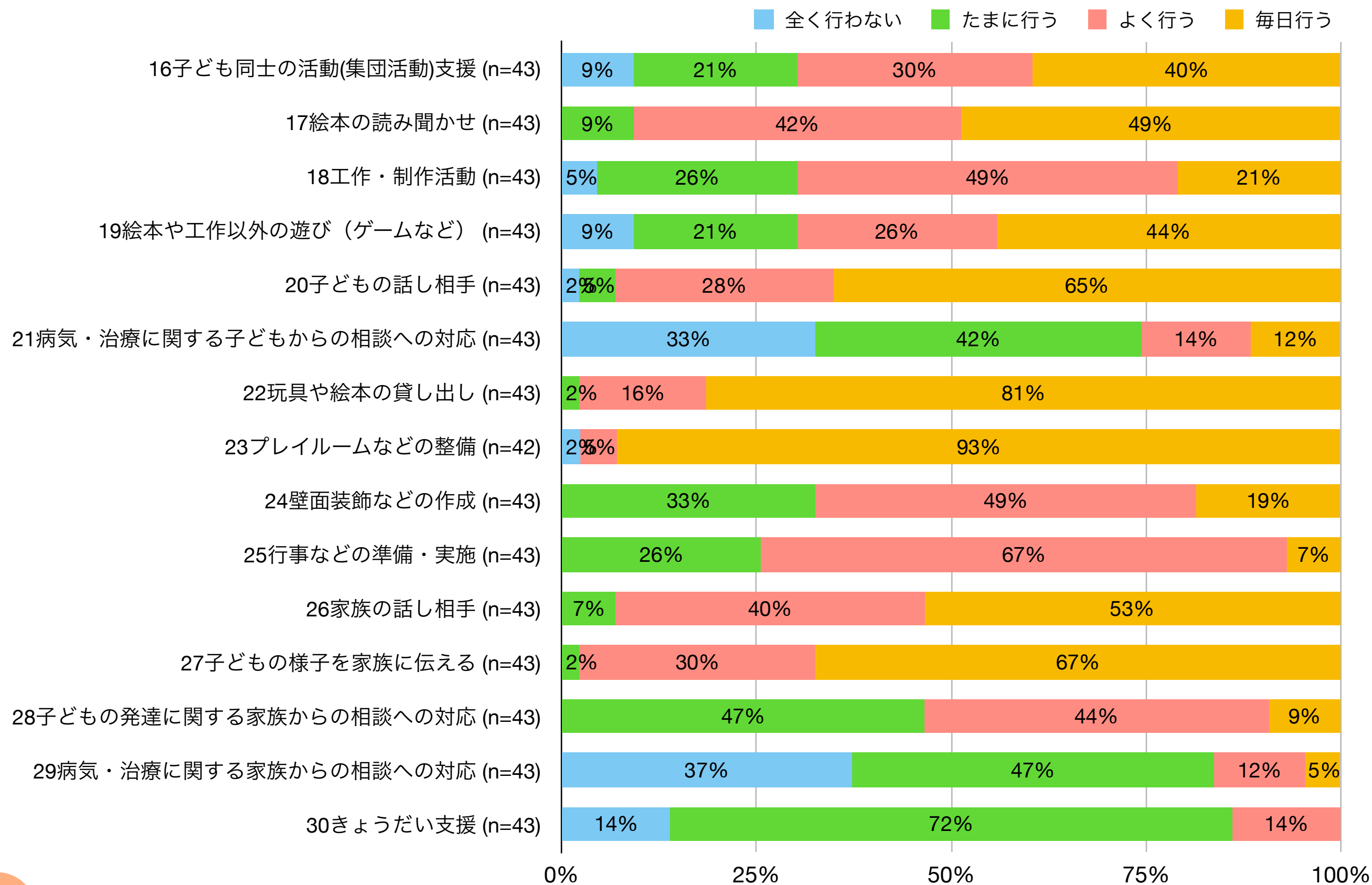
2.ご自身が普段、行っている業務について、おたずねします。

保育士



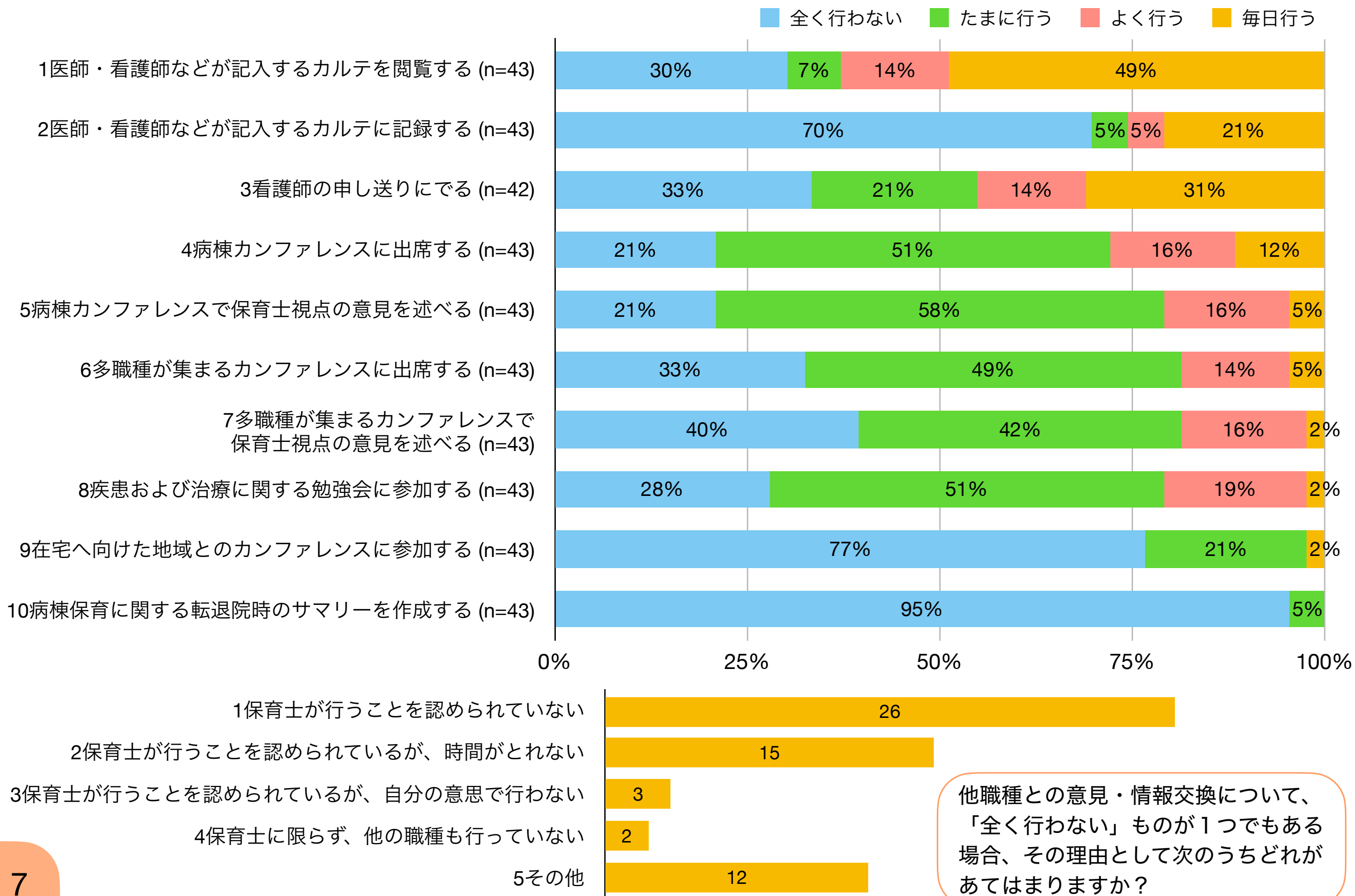
2.ご自身が普段、行っている業務について、おたずねします。

保育士



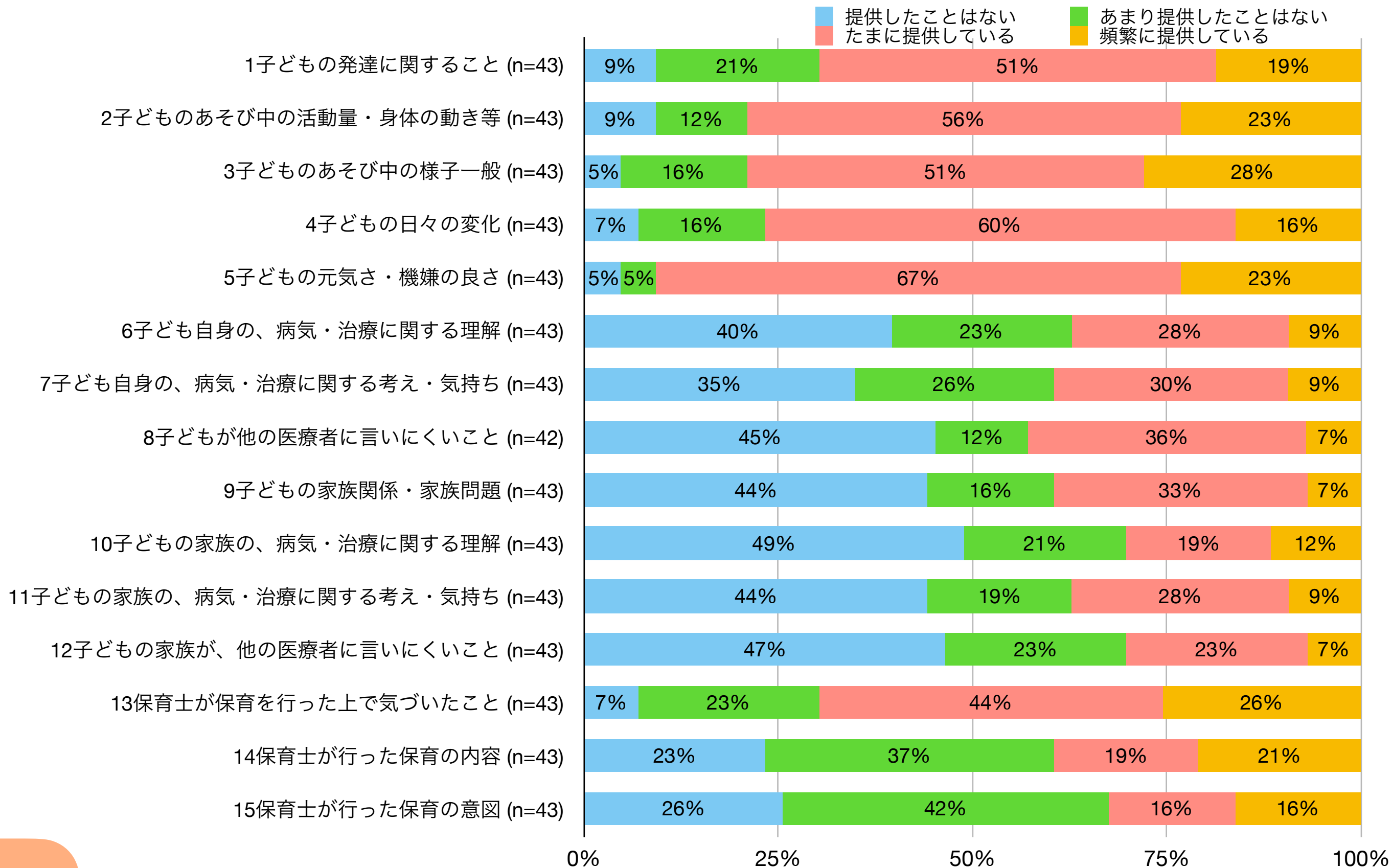
3.他職種との意見・情報交換の現状についておたずねします。

保育士



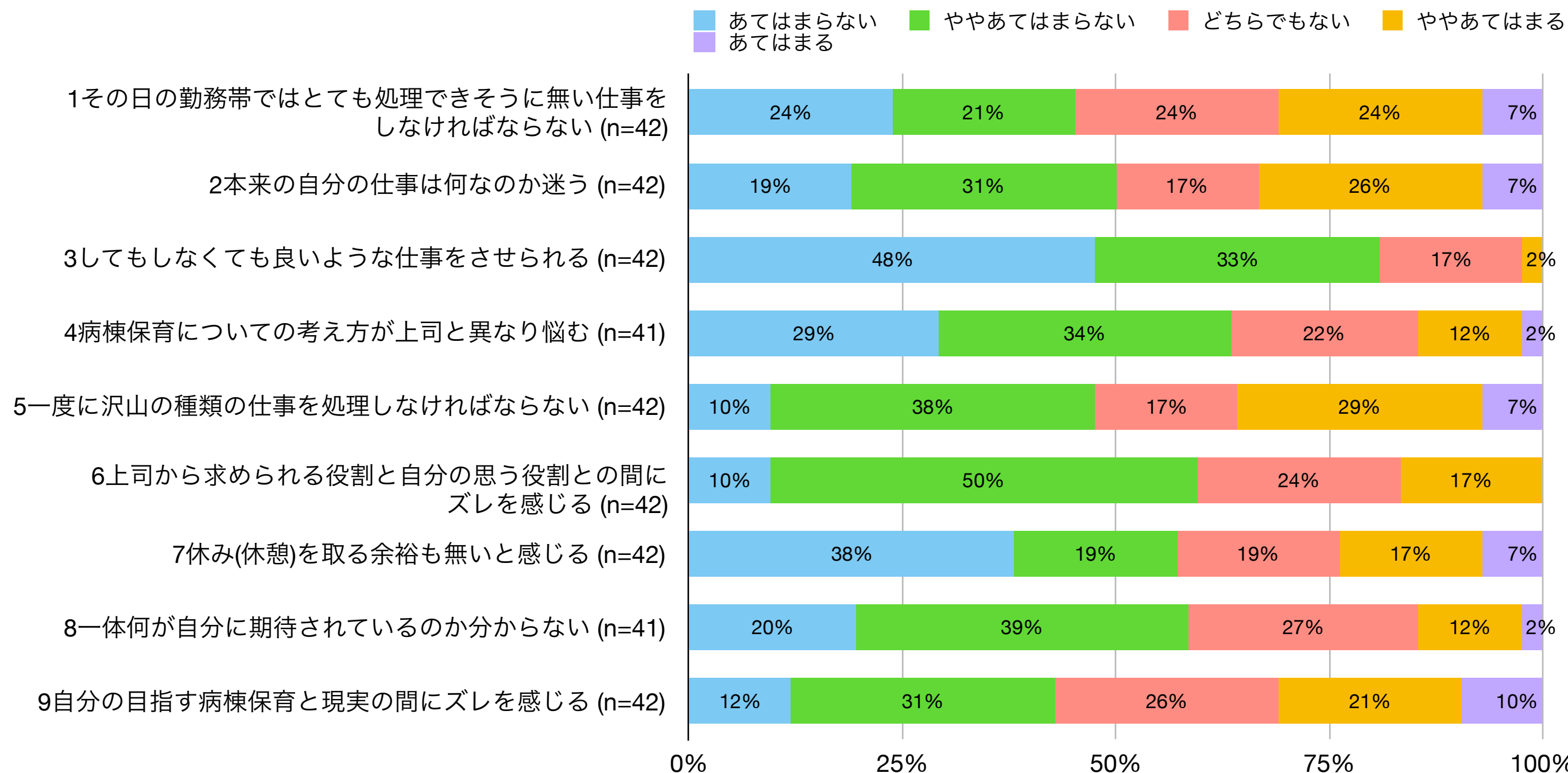
4. 普段、カルテやカンファレンス、立ち話などで、ご自身が医師に提供する情報として どのようなものがありますか？

保育士



5.ご自身が今の仕事についてどのように感じていますか？（役割ストレス尺度の結果）

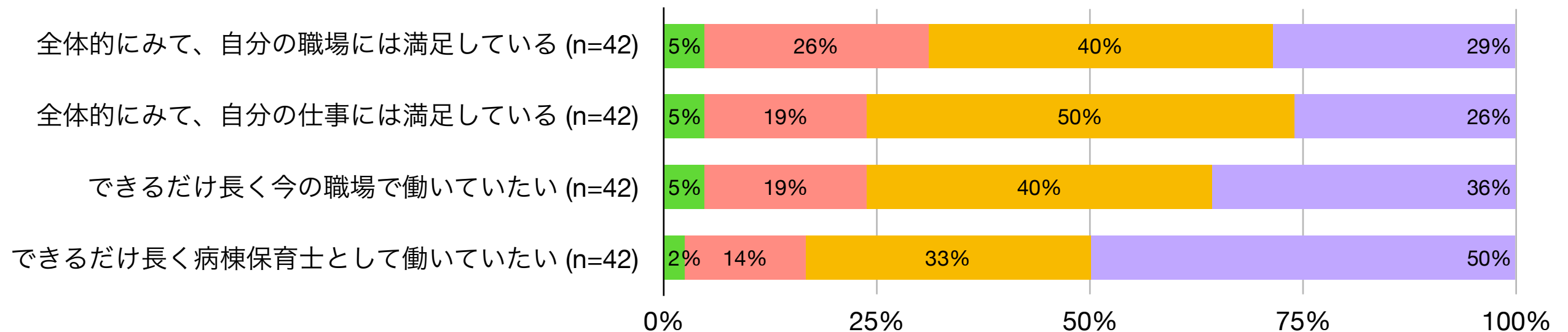
保育士



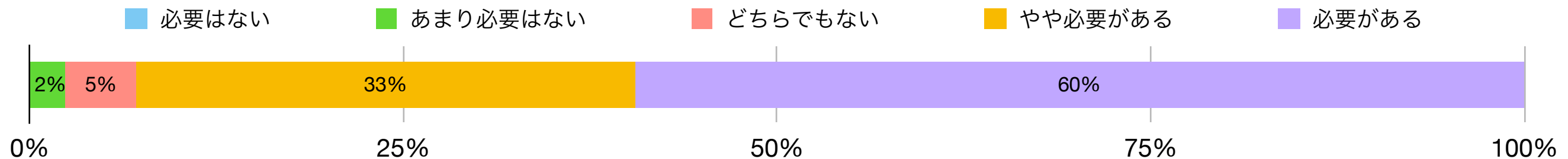
6.ご自身が職場および仕事に対してどのように感じていますか？

保育士

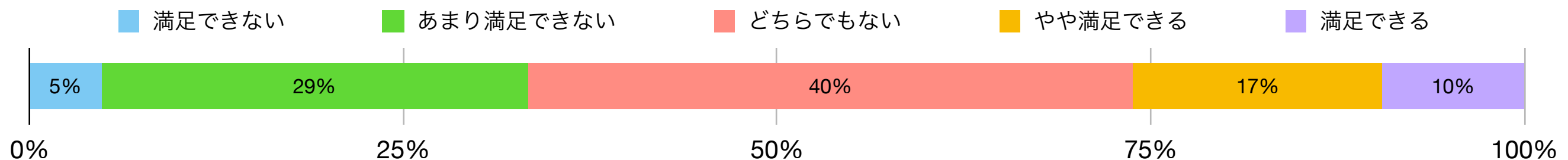
あてはまらない あまりあてはまらない どちらでもない ややあてはまる
あてはまる



保育士と医師は協働・連携する必要があると思いますか？ (n=42)



貴院における保育士と医師の協働・連携は、満足できるものですか？ (n=42)



ここまでのまとめ

今回は小児専門病院4施設にご協力いただき、151人の常勤医師、43人の常勤・非常勤の保育士にご回答いただきました。

保育士の調査結果として、子どもや家族に対して行っている業務に関しては4施設43人の保育士で大きな違いは見受けられなかったものの、他職種との情報共有の方法や内容については施設によって違いがある可能性が示唆されています。

具体的には、情報共有については（p.7）、「毎日行う」保育士も一定数いる一方で、「全く行っていない」「たまに行う」という保育士が多くの項目で半数以上占めていることが注目に値するでしょう。たとえば「医師・看護師が記入するカルテに記録する」という項目については、21%の保育士が毎日行っている一方で、全く行っていない保育士が70%という結果になっています。

また他職種に共有する情報に関しては（p.8）、特にばらつきの大きさが目立っています。あそび中を含めた子どもの様子や元気さ、日々の変化については多くの保育士が情報提供している一方で、子どもや家族の気持ちや思い、病気治療に関する理解、また家族関係に関する気づきなどについては「提供したことはない」から「頻繁に提供している」という保育士まで満遍なくいることがわかりました。

最後に、他職種連携の必要性や満足度に目を向けてみると（p.10）、93%の保育士が「必要である」「やや必要である」と回答している一方で、現在の連携・協働について「満足している」「やや満足している」との回答は合わせて27%に留まっていました。

参加していただいた医師の概要

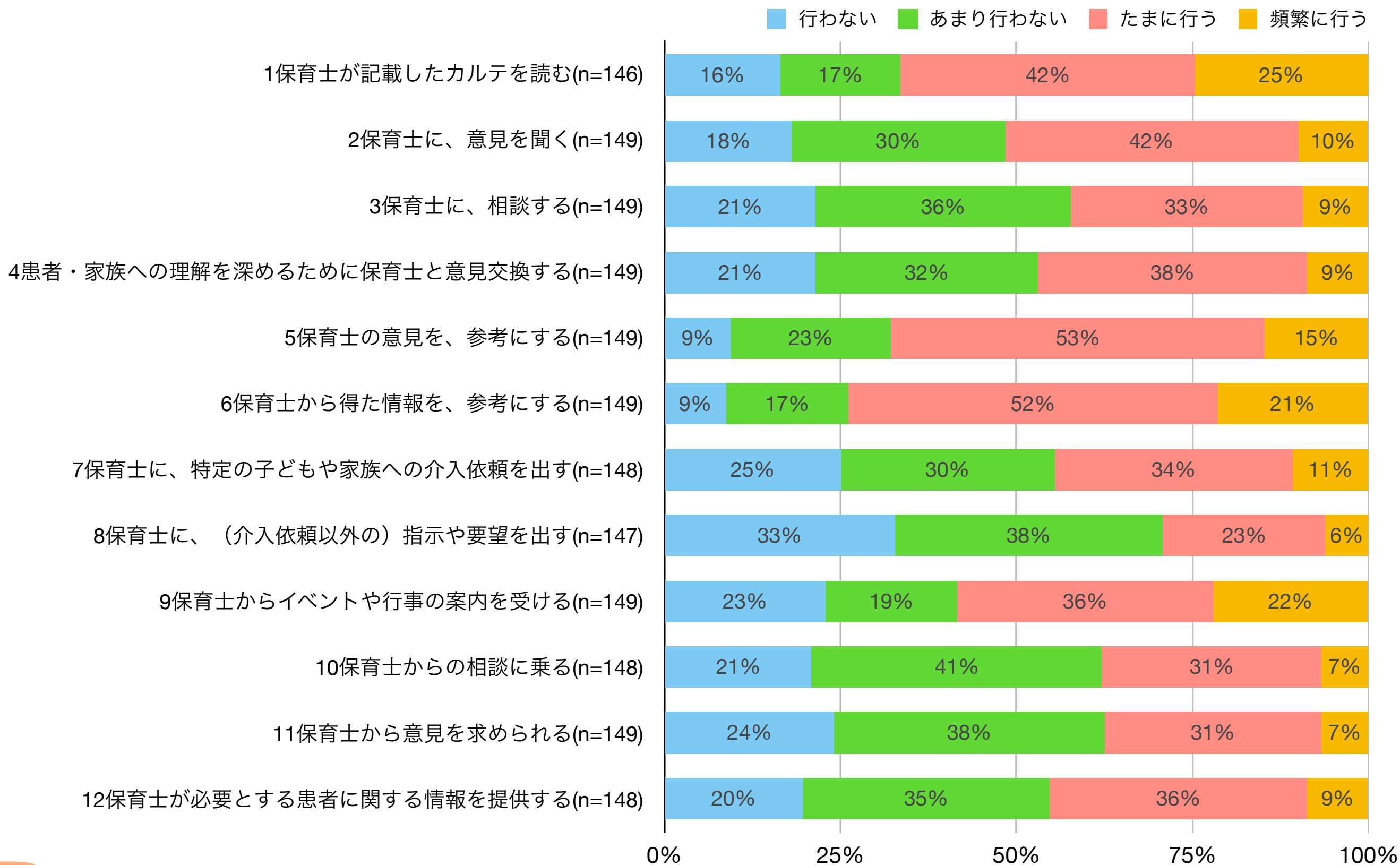
回答者数：151人

診療科（自由記述をもとに集計、n=147）			
小児科	14	泌尿器科・小児泌尿器科	10
血液腫瘍科・小児血液腫瘍科	7	眼科	1
内分泌・小児内分泌科	2	耳鼻咽喉科	6
感染免疫科・アレルギー科	8	歯科・口腔外科	6
神経科・小児神経内科	8	総合診療科	7
循環器科・小児循環器	10	精神科・小児精神科	2
消化器科	2	新生児科	8
腎臓内科	2	ICU・NICU	7
外科・小児外科	11	遺伝科	2
整形外科	7	麻酔科	7
形成外科	4	救急科	3
脳神経外科	5	産科	1
心臓外科・心臓血管外科	5	その他	2

医師免許を取得してからの平均年数	16.6年 (2-40年)
現在の病院での、平均勤務年数	5.8年 (0-28年)
平均年齢	41.8歳 (27-66歳)
性別	男性 105人 女性 42人

2. 普段、保育士との間にどのような交流がありますか？

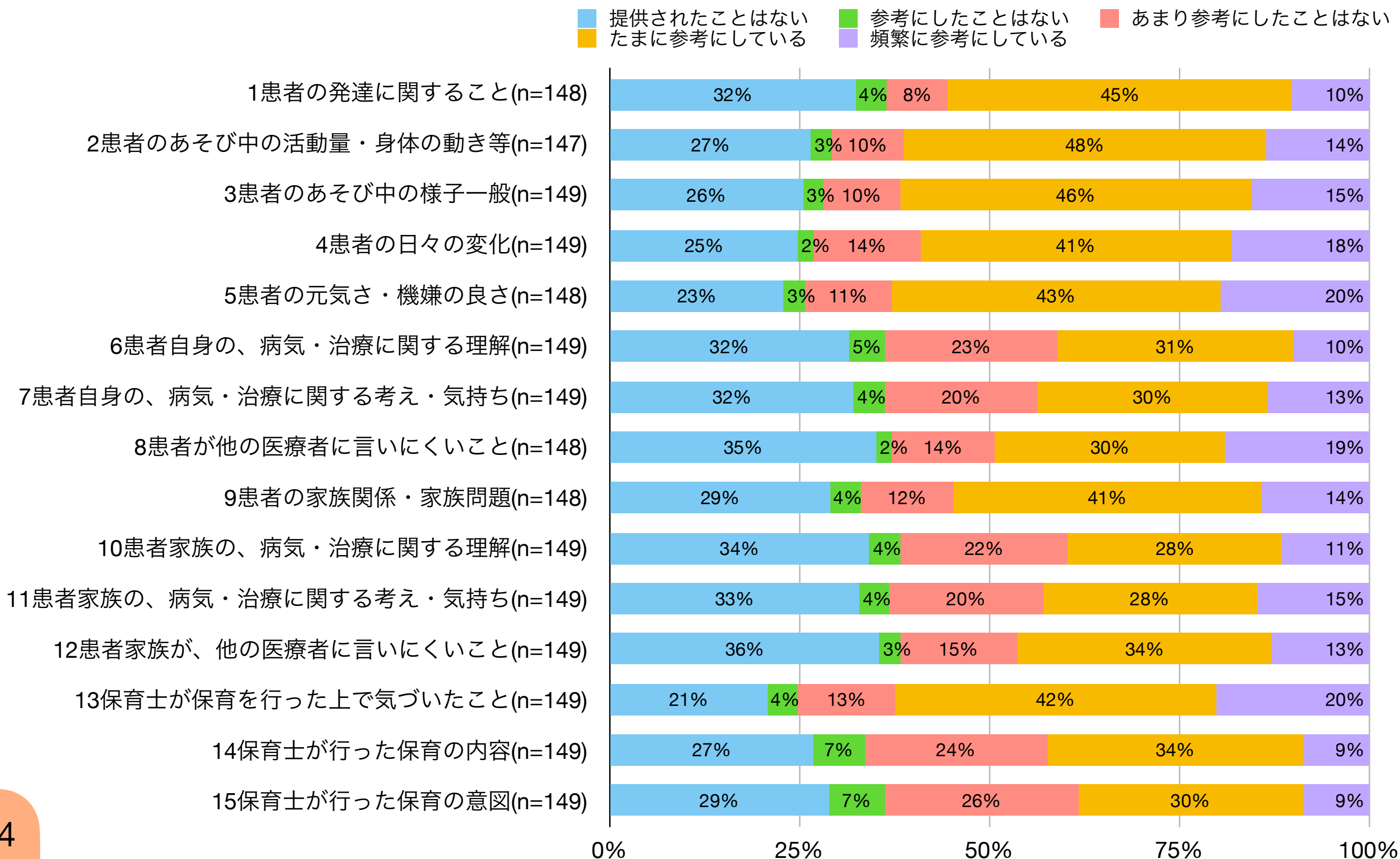
医師



3-1. 普段、保育士から以下の情報を得て、参考にしたり活用したりしたことはありますか？

医師

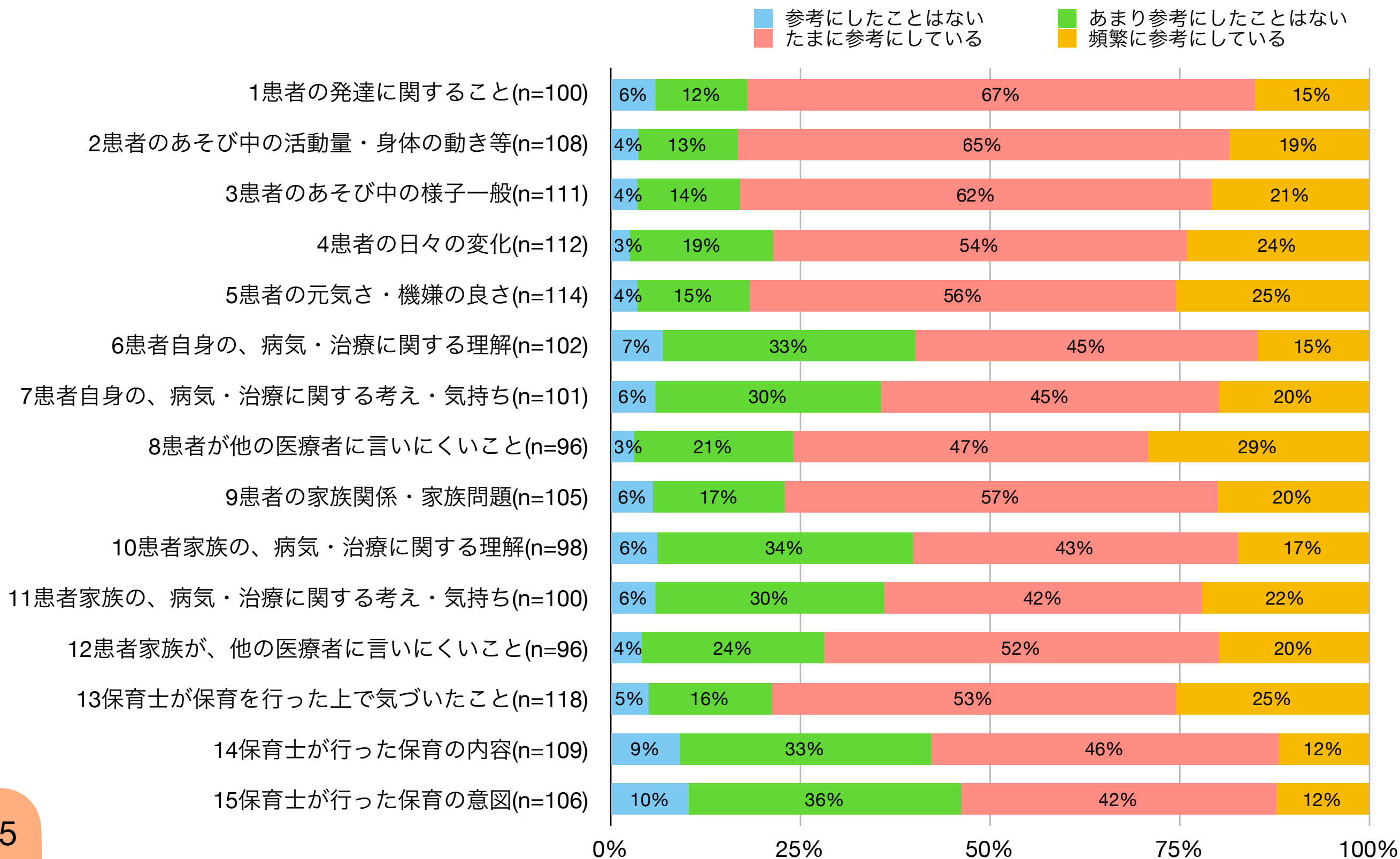
「提供されたことはない」を含めたパーセンテージ



3-1. 普段、保育士から以下の情報を得て、参考にしたり活用したりしたことはありますか？

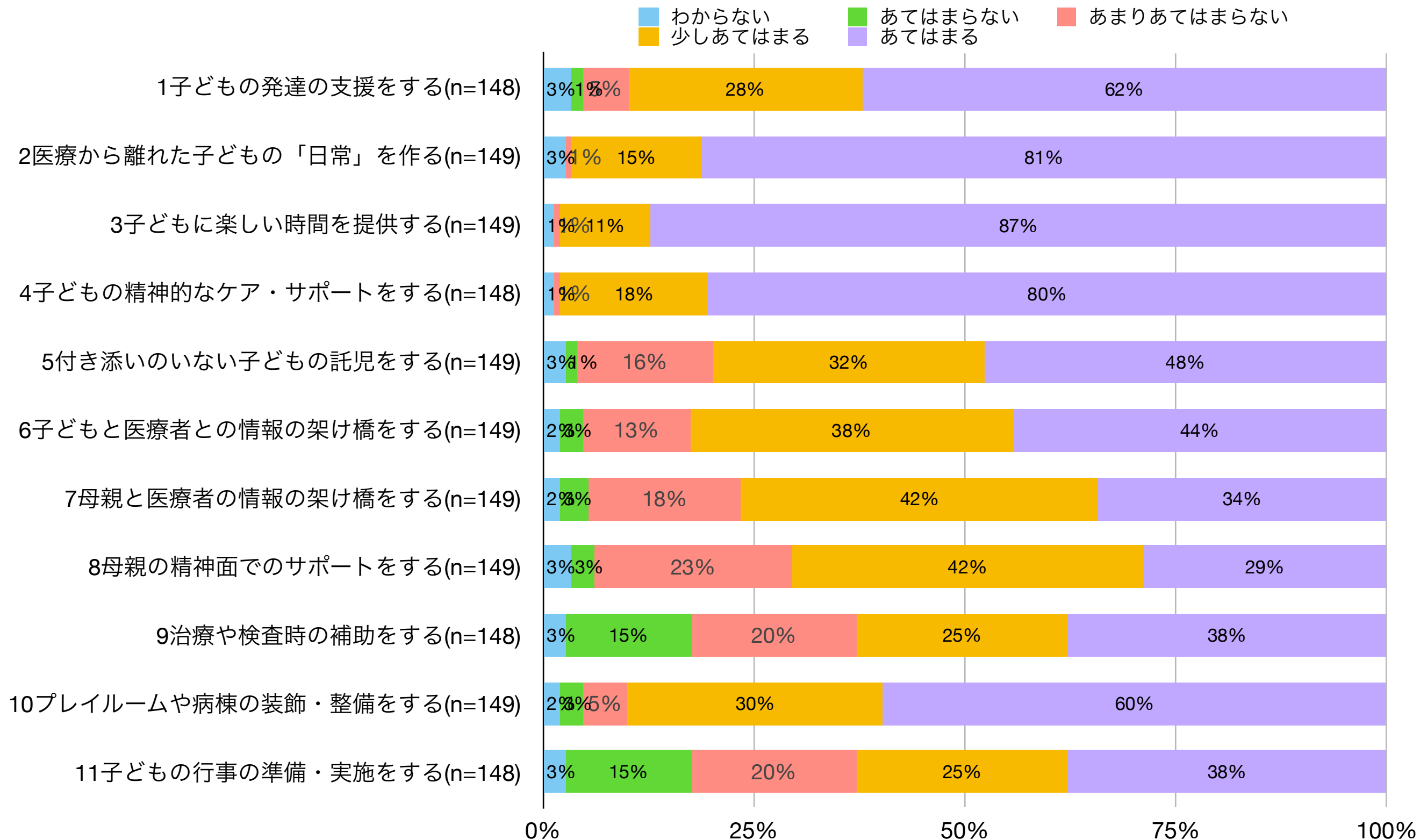
医師

「提供されたことはない」を抜いたパーセンテージ



4.病棟保育士は、どういふことを行う職種だと認識していますか？

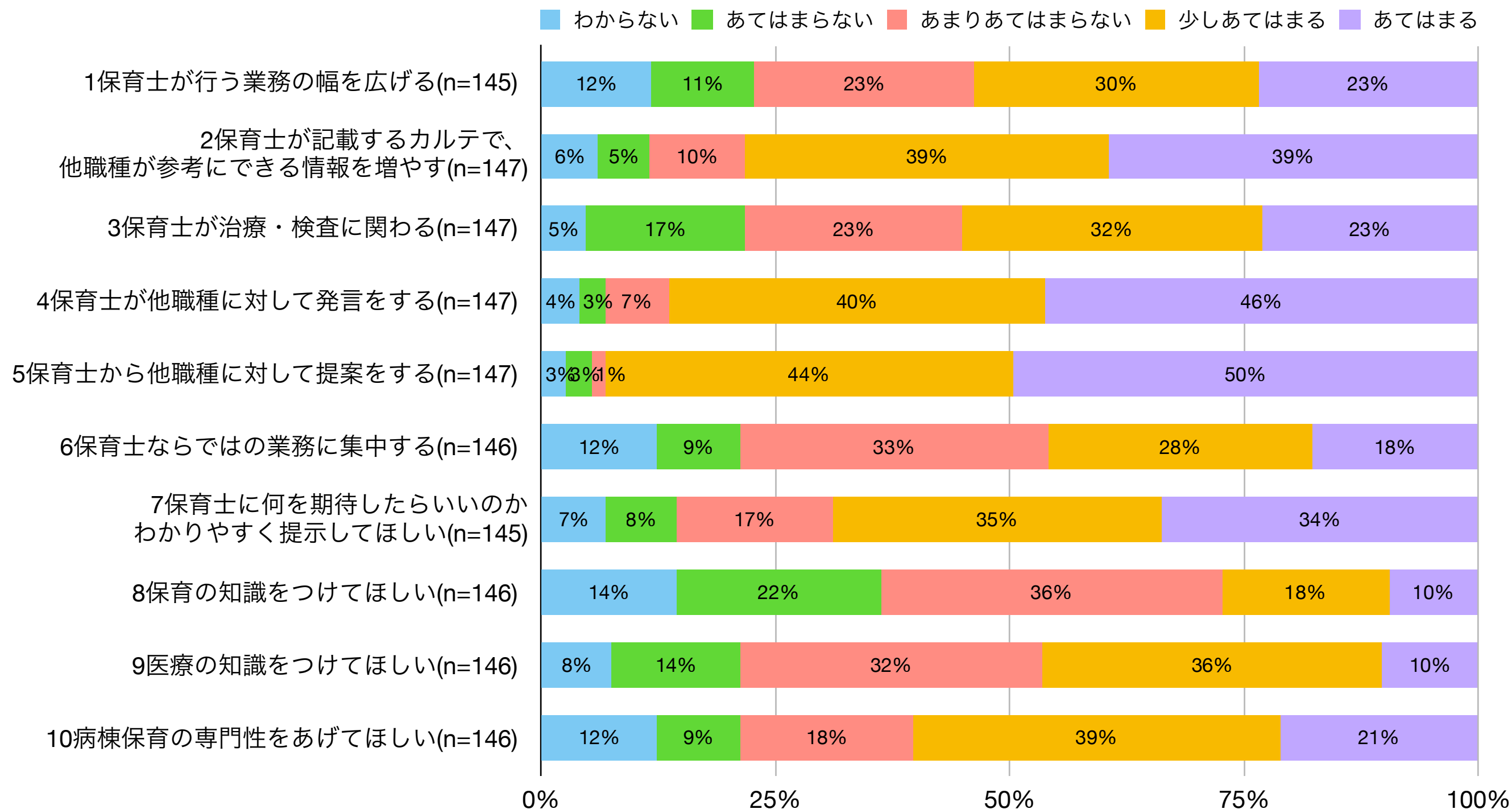
医師



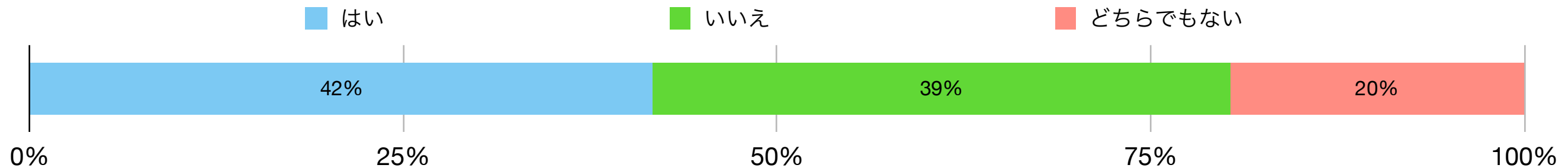
5.どのような変化があれば、医師として、より病棟保育士と協働しやすくなると思いますか？

医師

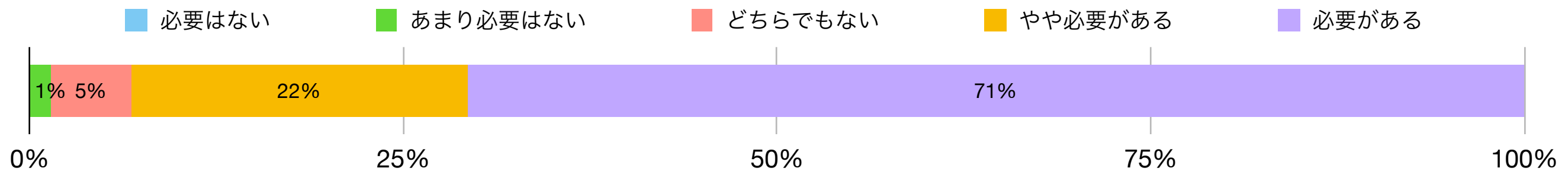
※ 今回得られている回答は、あくまで各医師の考え・思いであることにご注意ください。何が正しいかを指すものではありません。



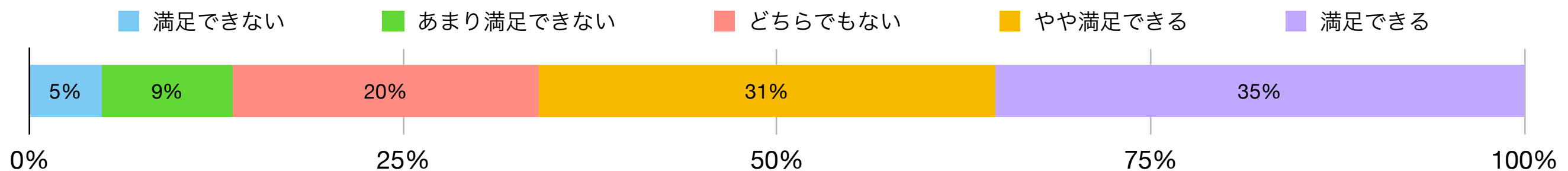
保育士から「患者自身の、病気・治療に関する理解」を聞いて、実際に患者への病気や治療に関する説明の仕方などを変えたり、工夫したりしたことはありますか？ (n=132)



保育士と医師は協働・連携する必要があると思いますか？ (n=147)



貴院における保育士と医師の協働・連携は、満足できるものですか？ (n=147)



全体のまとめ

今回得られた医師からのデータをみると（p.13）、保育士との交流については、かなりばらつきが大きいことがわかりました。（ただし、麻酔科や産科の医師など、必ずしも保育士と協働する機会が少ない医師も今回の分析に含めていることにご注意ください。）その中でも、保育士の意見や保育士からの情報を参考にするという項目においては、合わせて7割の医師が「頻繁に行う」「たまに行う」と回答しており、比較的多くの医師において保育士の意見や情報が活用されている様子が伺えます。

具体的に活用している情報の中身に目を移してみると、まず、全項目においてこのような情報は「提供されてことはない」との回答が3割近くにのぼっていることに注意が必要です（p.14）。一方で、情報を提供されている場合には（p.15）、特に子どもの様子や家族関係、家族が医療者に言いにくいこと、また、保育士の気づきなどについては8割近くの医師が「頻繁に参考にしている」「たまに参考にしている」ことがわかりました。また、実際に、保育士から得た子どもの病気や治療理解に関する情報によって、子どもへの説明の仕方を変えたり工夫したりしている医師が4割いることも、意味があると考えられます（p.18）。

全体のまとめ

保育士と協働しやすくするために医師が保育士に期待していることとして（p.17）、保育士から他職種に対する意見や提案、病棟保育の役割の明示などの項目の特点が高かったことも、見逃せません。保育士回答のデータとあわせてみると、確かに、カルテへの記載のみならず、病棟のカンファレンスや多職種が集まるカンファレンスにおいて発言を「全く行わない」「たまに行う」との回答が8割にのぼることからも（p.7）、医師が期待しているほど保育士の意見が聞こえていない現状があると考えられるでしょう。「保育士さんからの意見も遠慮せずにDrに話してほしい」「感じた事をもっとカルテに記入したり報告したりして欲しい」などの意見が自由記述欄で多く書かれていることも、このような医師の思いを反映していると考えられます。一方で、多くの保育士がそもそもカルテに記載していなかったり、カンファレンスに参加していない背景には、保育士の記載・参加が認められていない、もしくは、認められていても業務の中で時間がとれない、という回答が多いこともわかりました（p.7）。保育士からの情報が実際に活用されている可能性を踏まえれば、保育士の発言の場所・機会を増やしていく意義は大きいと考えられます。

今回ご協力いただいた医師のうち、保育士と同様に93%が、保育士と医師は協働する必要があると回答していたことにも注目です。今後は、診療科別などに分析を行うなどして、どのような医師がどのような情報を得ていて、参考にしているのか等、掘り下げて分析を進めていきたいと思います。

この度は本調査にご協力いただき、
誠にありがとうございました。

